



御堂筋の祭り

71年に現在地に遷宮鎮座された。現神社の北側の西横堀川沿いに陶器店が一時は二百数十軒が並び、神社ともども大盛況であったようだ。

その盛況ぶりが、せともの祭として引き継がれ

紋「白鷺」が目に見え込んできた。あとで、渡邊紘一宮司に尋ねると「神功皇后が坐摩神のお教えにより、白鷺の多く集まる場所に坐摩神を奉斎なさった」という由緒によるといふ。

昔も今も、白に神秘性、純粋性、清潔性を感じるのと同じであろう。しかし今日、それを心に抱く余裕さえ持てない時がある。いろいろ思いめぐらしていたところ、かねて

市民の心つなげる坐摩神社

た。瀬戸物市が立ち、陶器神社例祭の神事やイベントが同時に催される大祭が、今年も21日から開かれる。幽玄なかがり火に映しだされたお神楽や奉納太鼓で心が洗われ、咲き誇る鷺草と共に心が

戦後の経済優先社会で心の豊かさを失った今、心をつなぐ町づくりのために、伝統的の神事に加え、奉納行事として多様な芸術祭の支援に心を砕いておられる坐摩神社に敬意を表したい。そんな思いを、私までわくわくして

に立ち、作法通り2拝2拍手1拜で参拝し、顔をあげるとちようちんの神

下町の夏の風物詩に、軒先に咲く朝顔の鉢植えという風景がどこでもみられたが、最近あまり目に入らなくなった。洋ランなど洋風化したプラ

「鷺草」がある。花の姿からの呼称であることは、想像に難くないが、優雅で可憐、気品にあふれ、まるで天に舞う白鷺のようである。昔は全国各地に御堂筋線本町駅の船場セ

陶器神社の祭神は大陶器神と迦具牟神で、座したが、いくつかの経過を経て、昭和46(19

